

# 26P-am105

ヒトでのキウイフルーツ摂取による尿中酸化ストレスマーカーの減少

○森田 絵里香<sup>1</sup>, 岩澤 晴代<sup>1</sup>, 山崎 正利<sup>1</sup>(<sup>1</sup>帝京大薬)

【目的】近年、野菜・果物等の持つ抗酸化作用が注目されている。当研究室では、kiwi の免疫賦活作用に着目し、報告してきた。また、kiwi の摂取による、生体内での kiwi の抗酸化作用と、kiwi の品種による抗酸化作用の強弱についても本学会で報告してきた。今回は、より多くのデータを得るためボランティア数を増やし、ヒトが kiwi を摂取した際に生体内で起こる抗酸化作用について、尿中酸化ストレスマーカーを指標に調べた。DNA 酸化傷害マーカーである 8-OHdG 量、脂質過酸化マーカーである HEL 量、polyphenol 量について報告する。

【方法】ボランティア 18 名が、green kiwi または gold kiwi を 1 週間摂取し、kiwi 摂取前、摂取中、摂取終了後に計 7 回採尿。尿中 8-OHdG 量・HEL 量は ELISA 法を、尿中 polyphenol 量は Folin・Ciocalteu 法を用いて測定した。

【結果】Day0 と比較して、day2 及び day4 で尿中 8-OHdG 量・HEL 量の減少傾向が多く見られた。全ての酸化ストレスマーカーにおいて day2 及び day4 での値は、day0 の値が高いと減少し、day0 の値が低いと増加する傾向が見られた。この傾向においては、キウイの品種による差がほぼ見られなかった。効果別で見ると、効果が高い人の割合は green kiwi より gold kiwi の方が多く、特に gold kiwi の摂取による尿中 HEL 量で効果が高かった。

【考察】以前行なった少人数トライアルでの結果同様、green kiwi より gold kiwi で効果があり、day2 の方が day4 より効果があると示唆された。Day0 での値によってその後の効果に違いが見られることから、体内での酸化ストレス量を最適化しているとも考えられる。Gold kiwi は HEL を抑制する効果が高いことから、体内での脂質酸化を抑制し、動脈硬化等の疾患予防になると期待される。